

活動ノート



9月9日(日)
アカマツ林整備(草刈り、除伐)
13:30~15:30



◆参加者：迫(盛)、林、富永、大田原、迫一、松雪、鎌田、川上、小川(R)計9名

内容：雨を心配しながら食事を済ませ、道具を準備し炭焼き窯前にて体操をすませ、実施計画書をもとに作業目的、安全確認をしたあと、作業場所へ向かいました。除伐と草刈りに分かれて作業しました。まず伐木については径10センチ以下に限定。ホオノキ、ネジキ、ヤマザクラなどが主で堆肥ヤード作り替えの為に材が大分とれました。枝葉については、堆肥ヤードが出来たら底に敷くため細かく裁断しませんでした。まだ伐木の必要な木も残っているが、作業前より随分明るくなり、アカマツの成木も幼木も元気をもらえるのではないかと感じました。今ある堆肥ヤードが撤去されたら眺めの良い場所になるだろうなという青写真も描いています。また草刈については、シダがほとんどで、以前刈った場所のシダはまだ柔らかくて刈りやすかったが、手つかずだった場所のシダは固くて鎌で切るのに苦労したと

の事。アカマツ林全体が明るくなったためか、林床の植生が賑やかになってきていてうれしかった。無風状態で湿気の多い中けがなく、短い時間で意義のある作業を終えて振り返りを行い、クールダウン、道具の手入れをして解散しました。

【ふりかえりより】

・初めてで刈り込みハサミの使い方が良くわからなかった。(富永)
・小、中木を多く切りスッキリしました。堆肥床を早く整備すべきと思います。(林)

9月30日(日)
九州北部豪雨災害ボランティア活動参加(外部との交流)
9:00~15:00



◆参加者：松雪、林、柴戸、川上、菊池、篠原、静岡 計7名
内容：黒木町支所に9時集合。当日の災害ボランティア参加者は、当会以外に福岡大学からの30名など総員約50名でした。「えがおの森」(笠原小学校の廃校跡を有効活用)で、山村塾事務局長である小森耕太氏による安全や作業内容・分担などのオリエンテーションがあり、当会参加者は全員笠原地区で最も奥まった所にある棚田での作業に配属されま

した。なお、他のグループは、棚田や茶畑の土石の搬入出、キャンプ場でのバンガロー整備などが計画されていました。

作業場所となったのは8枚(計3反歩程度)の棚田、横の崩壊斜面から棚田に流入した大きな流木(杉)や竹の除去、また棚田への進入路になっている農道上に堆積している土石の除去が基本的な作業です。ただ、大きい杉を手ノコで切る事や流入土砂で埋まっている杉を人力で掘り出すのは実際上困難なため、小森氏や棚田所有関係者(石橋弘樹氏など)が操作するチェーンソーや小型バックホーを併用しての作業になりました。

そのため我々の具体的な作業内容は杉の枝打ちや倒れた竹の伐採、チェーンソーで切った枝や幹の運搬・集積、さらには集積した杉や竹の焼却、また農道に堆積した土石の除去が主なものでした。作業中はほとんど雨も降らず、また気温もどちらかといえば寒いというような気象条件の中、皆さん楽しく作業を進めることができました。特に、集積した木竹の焼却処理のために作られた大きなたき火は、ある意味では童心に帰って目をキラキラさせながら楽しんでいただいていたような気がします。

最終的には、作業時間が実質3時間と短かったこともあって、全ての木竹の除去はできませんでした。それでも、石橋氏から「皆さん手慣れておられる」というお

褒めの言葉も頂き、全員怪我もなく、また充実感を持って無事に作業を終えることができました。

最後に、地元関係者の「こういう手助けがなく、自分たちだけだったら田畑を元に戻そうという気は起きなかった。本当に皆さんに後押しされてここまで来ることができました。」という言葉が強く印象に残っています。災害ボランティアというのは、単に田畑や家を復旧する労働力としてだけでなく、精神的な助けとして寄り添えるものだということを実感した今回の活動でした。

【ふりかえりより】

・高齢の農家さんには軽トラや機械をいれる道が、とても大切なことを実感しました。（柴戸）

・水害から1カ月半たったところでしたが、黒木町笠原地区の現状、地元の方たちの心情が良く分かりました。（菊池）

10月14日（日）

油山の宝物さがし

9:00~15:00



◆参加者：岩尾、榎、鎌田（隆・麗）、川上、富永、静間、林、松雪、柴戸、石橋、相良、今永、小川R 計14名

内容：【プログラム】

午前 講演「江戸時代の福岡藩の山林について」、講師 宮野弘樹氏（福岡市博物館）

午後 「油山宝物さがしの3年間」（報告と意見交換）

（内容については特集7p参照）

【ふりかえり】

・学習の機会を得、感謝していません。非常に幅広く奥行きのある「宝物さがし」の論議が聞かれました（岩尾）

・昔から細かい管理台帳が整理されていたのでびっくりしました。（鎌田）

・目からウロコのような興味深い江戸時代の話しを聞くことができました。（松雪）

10月21日（日）

森のレクリエーション

10:00~15:00



◆参加者：安部・鎌田・川上・榎・静間・山川 計6名

内容：レクチャールームで、本日のコース等を説明してくすの広場へ向かいました。まずはストレッチで気持ちと身体をほぐし、油山の全景を眺めながら「秋の色いくつ」というゲームを楽しみました。管理棟方向へ降りたところで、すっかり色づいたアメリカカフウの紅葉を愛でつつ、梅園方向へ歩を進めて行きました。ヘアピンカーブの所では、アケボノソウ、ツリフネソウ、シンミズヒキ、オトコエシ、ヒヨドバナ、シロヨメナなどを観察したあと、イノシシ岩（本当にそっくり!）で「ノーズ」のゲーム。上空にアサギマダラの飛翔が！吊り橋を渡り黒木の森の四阿でランチタイム。ウォッチングの後半は、ツバキに着生しているヒノキバヤドリギや黄色のキク科のシマカンギク、ヤ

クシソウ、アキノキリンソウにセンボンヤリの閉鎖花の種子を確認しながら、ゆっくり歩いてカブ森A地区に至りました。ただ歩いて行くだけではと思い、五感を使って自然を感じる「フィールドビンゴ」で、森のレクリエーションの締めくくりとしました。参加者は少なかったものの、天気にも恵まれ、深まりゆく油山の自然を満喫して貰えたのでは？ お疲れさまでした。

【ふりかえり】

・好天の秋の一日、ノンビリ秋の油山の自然を探ることが出来、楽しかったです。（静間）

・いろいろな植物、昆虫に出会えて楽しい一日でした。（鎌田）

11月10日（土）

アカマツ林 堆肥床整備

10:00~15:00



◆参加者：榎、鎌田、松雪、林、富永、静間、徳光、体験参加（河野君、石川）計9名

内容：アカマツ林の堆肥床の作り替えるために、新しい堆肥床を現在の堆肥床より少し右奥の急な斜面になっているところに作ることにしました。周辺の雑木やシダなどを除去して、新たな堆肥床の地面が出るようにしたのですが、斜面での作業が大変でした。現在の堆肥床周辺も、前回から出していた伐木材が多かったので整理しました。体験参加の学生さんも頑張ってくれました。途中で、学生さんに伐木の体験をしてもらおうと、静間さんを講師

に実際に伐木と材の処理も勉強してもらいました。堆肥床の上側（前面）の柵を作るための杭は、前回伐った木や、今までの堆肥床の杭を利用しました。柵までの通路として、斜面を削り広めに段差のある道を作り、柵の周りを平らにしました。公園管理事務所に準備して頂いた丸太は次回に周りの柵として使えるように現場に持ち込みました。参加者のみなさまお疲れ様でした。ありがとうございました。

【ふりかえり】

・唐鍬を使っの道路工事は、昔山を開墾して畑を作った様子を思い出しました。全員の働きで予定していた以上の堆肥床になりそうです（榊）

・初めて本格的に木の作業が出来て、とても貴重な体験が出来ました。きつかったけどとても楽しかったです。ありがとうございました（石川：体験参加）

11月25日（日）

カブトムシの森除間伐

10:00~15:30



◆参加者：静間、松雪、榊、川上、迫（盛）、菊池（潤、泰）、岩尾、静間、徳光、樋口（利、友）、小川R 計13名

内容：小春日和となり活動には絶好のコンディション。春以来となるカブ森での伐採活動にはやる気満々のメンバーが揃い、当初予定していた以上に伐採本数が多

くなったものの、若干の時間オーバーで事故もなく終了できました。改めて森会メンバーのパワーを認識した一日でした。なお、午前中山口県で里山保全を行っているグループ「宇津木の里」の方々が見学に来られたので、富永さんに案内役を担当して頂きました。普段チェーンソーや刈払機を使っているとのことで、手ノコでの作業を興味深げに見ておられたようです。クヌギの間伐は来年2月の活動説明会で行うシイタケ駒打ちに利用する直径20センチのもの2本を伐採、現場近くで乾燥させています。除伐は湿地下部東側の直径31センチのユズリハとその周辺のカナクギノキ、ヤブツバキ、タブノキ、ヒサカキ、イヌザンショなど。これにより湿地下の遊歩道から休憩小屋が良く見通せるようになりました。湿地内にあった上部が折れたクヌギも伐採しました。その他飼育小屋横の直径36センチのユズリハ、センターから要請のあった観察小屋に隣接するクヌギ1本も伐採しています。今回湿地下部で伐採して出た材は遊歩道脇に並べ、枝葉は川向うで処理しました。来年3月の作業としては、湿地の西側、休憩小屋北側での除伐を予定しています。

【ふりかえり】

・クヌギ（24cm）、ユズリハ（36cm）の間伐、息切れしました。（岩尾）

・久しぶりに満足できる伐倒ができました。受口、追口の切方の習熟が必要だと思いました。（松雪）

12月1日（土）

アカマツ林 マツの木の保全、堆肥床整備、成木調査

10:00~15:00



◆参加者：迫、静間、柴戸、榊、川内、菊池（潤・泰）、岩尾、中嶋、小川R 合計10名

内容：まず新設の堆肥床の完成、遊歩道沿い及び林内の草刈、成木調査の3作業を行う事を確認しました。堆肥床は、足場が斜面で高く、苦勞はしましたが何とか柵回りの囲いはできました。旧堆肥床の中に入っていた古い枝木を取り出し新設の柵の中に放り込みました。後には枝葉が残り腐葉土化しており、驚いたことにカブトムシの幼虫が1匹見つかりました。アカマツ林入口階段を降りた視界も良くなり、遊歩道も草刈をして通りやすくなりました。成木調査については2009年に調べた1.3メートル以上の調査木がA/B両地区に各17本ありましたが今回はそれぞれ14本（内1本は近々伐採予定）と6本に減少しており落胆しましたが、幼木の調査区域内では2mを超えるものもあり、アカマツの世代交代が行われているのも確かです。10名で3つの作業をけがもなく終えて充実した1日でした。

【ふりかえり】

・久々に緑を見られて良かった。（中嶋）

・新しいヤードが立派にできて良かったです。（静間）

・成木調査を強力メンバーの登場で無事実施出来て良かったです。ありがとうございました（柴戸）